

令和6年1月10日

白子町教育委員会教育長 御園 正二 様

白子町小学校適正配置等検討委員会
委員長 榊田 充克

白子町立小学校の適正配置に関する具体的な方策について（最終答申）

令和4年5月27日の「白子町小学校適正配置等検討委員会」において、諮問のあった標記の件について、下記のとおり答申いたします。

記

1 主旨

我が国全体の人口問題に視点を当てると、2008年（平成20年）をピークに人口減少局面に入っています。また、年少（0～14歳）人口についても、1980年代初めの2700万人規模から減少を続けており、2060年にはおよそ791万人になることが推計されます。これらの背景の下、小・中学校が過度に小規模化したり、教育条件への影響が出たりすることが懸念されています。

本町においても、人口減少、出生数低下が著しく、令和3年度の出生数は、町全体で29名と減少しております。そこで、令和4年5月に「白子町小学校適正配置等検討委員会（以下「検討委員会」という。）」が発足し、小学校の配置について検討を重ねてまいりました。

本答申は、子どもたちの教育環境を最優先に考えて審議した結果として、白子町立小学校の適正配置について答申するものです。なお、審議にあたっては、文部科学省の定めた「小学校適正規模」、「白子町の年度別出生数」を踏まえ、「学校視察」、「保護者アンケート」及び「意見交換会」等を実施し、様々な見地から慎重に検討を行い、この最終答申に至りました。

2 具体的な小学校配置案について

○ 白子町の小学校配置は、現在の3校を統合して、1校にするべきだということになりました。

(1) 理由

- ・ 現在3校とも、各学年1学級だが、児童の減少により、2029年（令和11年）には、2学年が一緒のクラスになる複式学級になることが危惧されるため、複式学級は回避したい。
- ・ 3小学校の施設が老朽化しており、改修には、多額の費用が必要になる。

(2) 統合時期

- ・ 複式学級になることが危惧される2029年（令和11年）以前が望ましい。

(3) 使用校舎・場所

- ・ 校舎は、津波等の被害を受けにくい場所で、3階建以上の新築校舎。
- ・ 町の中心部。

【付帯意見等】

- ・ 白子町として魅力ある学校教育ができるように、計画的に教育環境を整え、充実させること。
- ・ 小中一貫教育を視野に入れ、中学校敷地内に校舎を建設すること。
- ・ 現在のきめ細やかな指導体制を維持するために、教員だけでなく、支援員等の配置を充実させること。
- ・ 津波対策、道路整備等の安全対策を講じるとともに、白子町立小学校独自の安全マニュアルを作成すること。
- ・ スクールバス等の通学手段を整備するとともに、バスロータリーや保護者駐車場を確保すること。
- ・ 統合して、廃校となった施設や跡地利用を十分考慮すること。
- ・ 保護者や地域住民の意見を十分に尊重すること。